

障害者の生涯学習を推進する上でのガイドライン（学びの場づくりチェックリスト）
—実践研究実施団体アンケートの結果からみえる5つの視点—

① 障害当事者の声を活かす、当事者が運営や支援の立場に関わる（ピア、参画）視点

→当事者の意欲や主体性、学習効果を高める

- 当事者や家族、関係者から学びへのニーズや声を聞く機会や仕組みがあるか？
- 当事者が思いや考えを伝えるような機会がプログラムなどにあるか？
- 学びのプログラムが当事者の生活においてどのような意味をもっているか？

② 支援者も共に学ぶ当事者としての視点

→支援者自身の視点や力量、立場性に関する省察を促す

- 当事者のニーズがなぜこれまで満たされてこなかった理由は？
- 「できないこと」「わからないこと」を社会や環境の問題として考えてみたか？
- 支援者自身が当事者の学びや多様な出会いについて「楽しむ」ことでできているか？

③ 多様な参加者による交流・関係形成が可能なプログラムづくりの視点

→学生をはじめとしたボランティアなどが当事者と出会い、関係をつくるプロセスから、共生社会構築に向けた学びへ展開する

- 参加者が障害者のみに限定されていないか？
- ボランティアなどの参加や地域イベントに参画するなどの展開があるか？
- プログラム以外に、交流する時間、集える場、学び続ける機会を用意できているか？

④ 非定型的な要素が大きいプログラムや場（拠点）づくりの視点

→当事者同士、当事者と支援者の関係性の変化を促す、支援者が当事者のニーズや課題を深く理解する

- 支援者・指導者が一方的にレクチャーするプログラムになっていないか？
- 参加者同士の話し合いや学び合いが意図されたプログラムになっているか？
- 学びのプログラムや空間が、参加者にとって「居場所」となりえているか？

⑤ 福祉と教育、学校教育と社会教育、行政と地域、それぞれの分野や立場を理解しながら、人・組織・事業等を媒介する視点

→立場、専門性、視点などの違いにより生じる、連携や協働の困難や相互理解の葛藤を乗り越える

- 学びの機会や場の存在が当事者や関係者に届いているか？
- 特別支援学校、障害福祉関係機関、親の会や当事者グループなどと接点があるか？
- 当事者の生活が豊かさや地域共生に向けた学びの意義や課題を共有できたか？

障害者の生涯学習推進を担う各支援者の役割、担い手等について —実践研究実施団体アンケートの結果からの整理—

○事業推進者の役割（組織における事業推進担当者を想定）

事業の総括、グランド（計画）デザインの構想と共有、各分野の関係者と連携・調整、人材発掘・育成、会議運営・ネットワーク構築、環境醸成・場づくりなど

<具体的な担い手の想定>

社会教育・生涯学習担当課職員（障害者学習支援窓口担当職員等）、特別支援教育担当課職員、障害福祉担当課職員、社会教育施設（公民館・生涯学習センター、図書館、博物館、社会体育施設等職員）、障害福祉事業所等の事務担当職員、大学等の事務担当職員など

○コーディネーターの役割（組織外人材のコーディネーター、事業推進者兼任などを想定）

事業の中核的存在、地域の現状分析、課題やニーズの把握、学習者や家族等との関係構築、関係者への専門的助言、実践のまとめ役、事業成果の分析・考察など

<具体的な担い手の想定>

社会教育主事、指導主事、特別支援学校教員（退職者等含む）、大学教員・研究員等（社会教育、特別支援教育、社会福祉等の専攻）、障害福祉事業所等の専門的職員など

○その他の支援者の役割（講師やボランティア、メンターなどを想定）

参加者と同じ目線で参加、学習者との関係形成、学習者間関係形成支援、学習者の声やためらいなどへの気づきなど

<具体的な担い手の想定>

パートタイムの学習支援者（講師等を含む）、関心を有する一般市民（ボランティアセンター等との連携）、高校生・大学生・専門学校生等の若者（教育課程との連携）など

障害者の生涯学習推進を担う各支援者に必要なスキル等

- ◆障害者と障害特性、障害者を取りまく事情への理解
- ◆障害者の自己決定を支えるコミュニケーション力
（自己決定の基礎となる情報を伝えるスキル・意思表示を理解し発信を助けるスキル）
- ◆障害者当事者の講師・コーディネーター等／循環型生涯学習
- ◆情報保障／一般講座等との接続
- ◆人・組織・事業等を「つなげる」
- ◆発信力（ICT等、手段のスキルも含め）
- ◆障害者の生涯学習の意義等に関する理解
- ◆事業実施・継続のための実務的スキル